

發送
番號
第 五 二 號

大正 年 月 日 判決
大正 年 月 日 撥濟

淨寫校 合

大正 年 九 月 九 日

校長



廢券原封



銘件

備外山人教師備入義旨前案甲

三六

年 月 日

校長

議案野紙

小樽高等商業學校

文部大臣宛

本校外國人教師(担任学科英語學)缺員中、處
今回別紙履歷、若見常事係、在外研究員
濱林教授(在教備)之依頼、人物控衡、結果、結
果適宜任者、以答有之、兼、內交渉、預
備、備別紙契約案、通、契約締結備入度
順問、許可相成、此段及、重、年、候也
追而、新學期授業開始、之、目、候、間、有、之、至、急、且、航
政、生、度、存、向、可、成、の、速、に、以、許、可、相、成、可、成、也

文部 野紙 上之

發送
番號

第 三 號

大正 年 月 日 判決

大正 二年 十二月 九 日 報濟

淨寫校 爲 合

大正二年十二月八日

校長



藤原 德太郎



銘件

外國人教師傭入契約締結済

年 月 日

校長

文部大臣宛

議案野紙

小樽高等商業學校

本年九月二十日付小商秋一〇号ヲ以テ
即許可相成候英國人口バート、
リクス、モリスン傭入ニ付本人、去月
二十一日神戸着上陸同廿五日當地着
即刻出校同日傭入契約締結仕小
間契約書写相添此段開申也

小樽高等商業學校

小樽高等商業學校長伴房次郎トロバート　フイーリクスモリスン間ニ締結シタル
契約

第一條　上記モリスン氏ハ本契約ニ依リテ小樽高等商業學校ニ於テ英語及文學
ノ教師トシテ備聘セラル其期間ハ昭和二年（一千九百二十七年）

十一月二十日又ハ義務履行ノ爲メ本人ガ學校ニ出頭シタル日ノ兩日中
ノ後ノ日ヨリ昭和五年（一千九百三十年）三月三十一日ニ至ル

第二條　上記モリスン氏ハ日本國小樽市ニ至ル旅費トシテ金一千九百三十圓ヲ
受ク此金額ハ日本總領事ノ面前ニ於テ署名シタル時又ハ公證人ノ確證
シタル契約書ニ正式署名ヲ爲シタルモノヲ日本總領事ニ交付シタル時
ニ支拂フヘシ

第三條　上記モリスン氏ハ金四百二十五圓ノ俸給ヲ受ク此金額ハ毎月末之ヲ支
給ス契約ノ開始並ニ終了ニ際シ勤務一ヶ月ニ滿タサル場合ニハ實際勤
務ノ日數ニ應シテ俸給ヲ受クヘシ

第四條　上記モリスン氏ノ爲メ無料官舎ヲ使用ニ供ス如何ナル事情アルモ此官

小樽高等商業學校

- 第四條 土庫子リズノ凡ノ租ノ無得百舎ニ對田ニ斯ノ俄四ナハ非前テハ手直日
 後ノ日據ニ願シテ租額ヲ受クヘシ
- 第五條 土庫子リズノ凡ノ租ノ無得百舎ニ對田ニ斯ノ俄四ナハ非前テハ手直日
 後ノ日據ニ願シテ租額ヲ受クヘシ
- 第六條 土庫子リズノ凡ノ租ノ無得百舎ニ對田ニ斯ノ俄四ナハ非前テハ手直日
 後ノ日據ニ願シテ租額ヲ受クヘシ
- 第七條 土庫子リズノ凡ノ租ノ無得百舎ニ對田ニ斯ノ俄四ナハ非前テハ手直日
 後ノ日據ニ願シテ租額ヲ受クヘシ
- 第八條 土庫子リズノ凡ノ租ノ無得百舎ニ對田ニ斯ノ俄四ナハ非前テハ手直日
 後ノ日據ニ願シテ租額ヲ受クヘシ
- 第九條 土庫子リズノ凡ノ租ノ無得百舎ニ對田ニ斯ノ俄四ナハ非前テハ手直日
 後ノ日據ニ願シテ租額ヲ受クヘシ

小樽高等商業學校

- 第五條 授業時間數時間割授業方針及其ノ他總テ學校ニ關スル事項ニ付テハ校
 長ノ指揮ニ從フヘシ但一週二十四時間以上ノ授業ヲ命セラル、コト無
 シ又ハ日曜日ノ授業勤務ヲ命セラル、コト無シ
- 第六條 上記モリスン氏ハ依囑ヲ受ケタル學事又ハ其他總テ本校ニ關スル業務
 ニ付意見ヲ披陳スルコトヲ得但其決定ヲ爲ス權ハ常ニ校長之ヲ有ス
- 第七條 上記モリスン氏ハ本校ノ規則ヲ遵守ス右規則ニ違反シ又ハ本契約ニ違
 反シタル場合ハ學校長ニ於テ本契約ヲ解約スルコトヲ得
- 第八條 上記モリスン氏ガ病氣ノ爲メ又ハ其他已ムヲ得サル事情ニ由リ引續キ
 三十日以上勤務ヲ爲ス能ハサル場合ニハ此期間終了後病氣又ハ其他ノ
 事情ノ繼續スル間ハ第三條所定俸給額ノ二分ノ一ノミヲ受ク
 若シ同一原因ノ爲メ更ニ六十日ノ期間ノ後ニ至ルモ猶勤務ヲ爲ス能ハ
 サルトキハ學校長ハ本契約ヲ解約スル權利ヲ有ス
- 第九條 本契約ノ各當事者ハ第一條ニ定メタル契約期間中何時ニテモ任意ニ本

小樽高等商業學校

前六十日以前ニ其旨ヲ通知スルニ由リニ返答スヘシ
 第十二條 本契約漸次履行シ得ル本契約ノ履行ニ妨害スルハ本契約履行停止

ノ限内ニ補償スル組合ハ補償額算出シテ金一十其百二十圓ニ受取ヘ
 サルキハ又ハ本契約履行停止ニ由リ得ル補償額算出シテ金一十其百二十圓ニ受取ヘ
 第十一條 本契約履行停止ノ限内補償シテハ本契約履行停止ノ限内補償額算出シ

テ返答スルコトヲ得
 組合ニ由リテハ本契約履行停止ノ限内補償額算出シテ金一十其百二十圓ニ受取ヘ
 當スル金額ノシテ受取ヘシト由リテ返答スルコトヲ得
 前項日額三ヶ月以内ニ由リテ補償額算出シテ金一十其百二十圓ニ受取ヘシト由リテ返答ス
 第十一條 本契約履行停止ノ限内補償シテハ本契約履行停止ノ限内補償額算出シ
 第十二條 本契約履行停止ノ限内補償シテハ本契約履行停止ノ限内補償額算出シ
 第十三條 本契約履行停止ノ限内補償シテハ本契約履行停止ノ限内補償額算出シ

小樽高等商業學校

以上契約ヲ證スル爲メ各當事者ハ茲ニ署名スルモノナリ
 小樽ニテ

昭和二年十一月二十五日

小樽高等商業學校

昭和二十一年八月二十五日

小樽ニテ

以上各條ヲ備スルニ及ビ各當該條ハ該ニ各該スルモノナリ

供閱
校長

文 部 省

小商秘一〇號

小樽高等商業學校長

昭和二年九月九日附秘第五二號稟申英國人口バート、フイーリクス
モリスンヲ備外國人教師トシテ備入ノ件許可ス

昭和二年九月二十一日

文 部 大 臣 水 野 錬 太



省 部 文

小商秘一〇號

昭和二年九月二十一日

文部大臣官房秘書課長
文部書記官 赤間

信

文部大臣官房秘書課長
赤間

小樽高等商業學務長 伴 房 次 郎 殿

通 牒

昭和二年九月九日秘第五二號稟申備外國人教師備入ノ件指令相成タル處右
ハ契約案中左記ノ通改ムルヲ條件トシテ許可セラレタルモノナルニ付御了
知相成度

記

1

一冒頭「昭和二年」を「代理者」ヲ削除



發送
番號

第 五 九 號

大正 〇 年 〇 月 〇 日 判決
大正 〇 年 〇 月 〇 日 投濟

淨寫
合

大正 二 年 九 月 十 四 日

校長



嚴 務 係 主任

銘件

備外之人ニ関スル件

年 月 日

伊 藤 氏 之 友

所 附 之 印 宛

議 案 寫 紙

小樽高等商業學校

前略 本月九日付秘五ニ号ヲ以テ英國人
 ロバート・フリークス モリスンヲ 本校英語教
 師ニ備入ノ義ニ付稟申致候處 太、ロンドン
 ニ於テ浜林教授ヲ 内交渉済ノ者ニシテ本日
 浜林教授ヨリ モリスン ニ十四日 出発 旅費 送金
 セヨト 通電有之ルニ就テハ 同人ヲ 備入ノ 許可ヲ
 受ケ 送金 致度 存ル間 尚 多用 中 甚ガ 恐入ル
 (共 至 急 許 可 柄 成) 様 尚 盡 力 以 願 度 尚 許
 可 了 次 才 電 報 三 市 通 知 被 下 度 此 段 尚 依
 賴 申 上 川

小樽高等商業學校

元來、許可證、上英國ニ於テ契約スル所
漢林教授ノ誤解ニテ生ラレク出立期ヨリ
決定シ奉リ此所掛合ニ置此下度ハ但
市許可サレト萬事都合ヲ相違ヒル
ニテ本校カ赴任ヲ急キハ事情ノ為メ漢林
氏之取急ヤタルカト云有ル

一九三七年一月一日

昭和二年(月)日 日本政府、文部大臣

代理者、少将高島、商業学校長伴

房、ロバート、フィリクス

モリスン間、締結シタル契約

オ一系、上記モリスン氏の本契約に依りテ、少将

高島、商業学校ニ於テ、英語、英文ノ教授

トシテ、備付セル其期、昭和二年(一九三

七年)月、日又ハ、義務履行ノ為メ、本人

が学校ニ出頭シタル日、両日中後、日ヨリ

昭和五年(一九三〇年)月、日ニ至ル

オ一系、上記モリスン氏、日本、国小、将、市、

至ル旅費トシテ、金、一千九百三十日、日、定、ル、此、在、ル、

ハ、日、在、ル、領、事、ノ、面、前、ニ、於、テ、署、在、シ、タル、日、

時、又ハ、公、証、人、ノ、日、確、証、シ、タル、契、約、書、ニ、日、式、

四、名、指、シ、タル、モ、リス、ン、氏、日、在、ル、領、事、

ニ、日、交付、シ、タル、時、日、文、押、ス、日、

才三系

上記モリスン氏ハ、~~月~~金四百二十五円

ノ俸給ヲ受ケ、此金數ハ毎月末之リ支取ス

契約ノ開始並ニ終了ニ際シ、~~浦上~~勤勞費

一ヶ月ニ渡リタル場合ニハ、實際勤勞費ノ日數ニ

應シテ俸給ヲ算出シ受ケラレシ

才四系

上記モリスン氏ノカメ、毎料在舎ヲ供用シ

供ス如何ナル事情アルモ、此及金會ニ代出スル

家賃手当ヲ支給セス

才五系 授業時間數 時間制、~~日~~授業方針

ハ其他後ヲ學校ニ關スル事項ニ付テハ、校長

ノ指揮ニ従フシ、他、~~日~~一週ニ二十四時間以上ノ

授業ヲ命セラレ、トモ、毎レ又、日曜カ、授業

ニ勤勞費ヲ命セラレ、トモ、毎レ

才六系

上記モリスン氏ハ、~~日~~依時ヲ受ケタ

ル學事、~~日~~又、~~日~~他、~~日~~校ニ關スル學業費

ニ付、意見ヲ披陳スルコトヲ、得ル決定シ、~~日~~あ

ス概ニ、~~日~~常ニ校長之リ有ス

オセ宗 上記モリスン氏カ本校規則、普通及シ

ルトキ本校ノ利益ヲ官口ニヘキ行アリ

オセ宗 若シ本校教師タル名義ヲ官スル信託

行アリシハオセ宗トキ又ハオセ宗ニ定メタル事

項ニ教授スル不道任ルトキハ母校長ハ

信ノ取消スルノ得ルモノトス

オセ宗 上記モリスン氏カ病氣ノ病ノ又ハ其他

原因得ル事情ニ由リ引続キ三十日以上勤報カ

ラオス能ハサル場合ニハ此期間終了後病氣ス

又ハ其他ノ事情ノ往後ニ向テオセ宗所定條

件ノ二分ノ一ノシテ受ク若シ同一原因ノ

由メ更ニ六十日ノ期間ノ後ニモ此規定ハ

オセ宗ニシテハ本校長ハオセ宗トキ

不道任アリ

オセ宗 有契約ノ各当事者ハオセ宗ニ定メタ

ル契約期間中何事モ本契約ヲ

解除スルノ意思アルモノヲ三ヶ月以前

ノ得但テ再解ノ意思アルモノヲ三ヶ月以前

ノ得但テ再解ノ意思アルモノヲ三ヶ月以前

ノ得但テ再解ノ意思アルモノヲ三ヶ月以前

ノ得但テ再解ノ意思アルモノヲ三ヶ月以前

ノ得但テ再解ノ意思アルモノヲ三ヶ月以前

ノ得但テ再解ノ意思アルモノヲ三ヶ月以前

ノ得但テ再解ノ意思アルモノヲ三ヶ月以前

通言ニ相手方ニ通告スルヲ要ス

第十九条 学校長ノ意思ニ依リテ^{解約}解約シタル場合

ニ於テハ上記モリスン氏ハ解約ノ日ノ翌日より

始メテ三月分ノ俸給ニ相当スル^金額ヲ学校

ヨリ受ケル^レ但解約^後契約満期日前三十日

内ニ於テ解約ヲ申し渡シタルトキハ契約満期ノ俸

給額ニ相当スル金額ノ^金額ヲ受ケ^ルトシ 上記モリ

スレバノ意思ニ依リテ解約ヲ申ス場合ニ於テ

ハ亦三条ノ規定ニ依リテ解約ノ日迄ノ俸給

ノ^金額支拂ノ外一切請求ヲ由ス^レトシ得ス

第十九条 本契約ノ條項ヲ履行シ期間満

了シタル後上記モリスンノ契約ヲ更新セザル

トキ^ハ~~規定~~規定^ハ氏カオ七条所定ノ事由ニ

因^リテ^ハ因^リ若クハ^ハ第三条ノ^ハ規定

ノ規定ニ依リテ学校長ノ意思ニ因リ退職

シタルトキハ俸給^金額トシテ金一千九百三十

四^百ヲ受ケ^ル

第十三条 本契約満期、際学校校長が本契約の更新を希望するときは、前二
ハ本契約期間満了前六十日以前に
其方より該モリスン氏に通知すること

以上契約の証となる者當事者各公証
四者名を云々

小村三子 小村高道 高業子 校長
年月日 伴信次郎

証人

ロバート ファイリクス
モリスン
〇〇
〇〇
年月日

証人
日本後援會 又ら河入

IMPERIAL JAPANESE TELEGRAPHS

7
セ
ト
53
93

LONDON 51 7W 13 10 55M IND BEAM HANDED
(受信通過番號、額表及局内心符)

後 回電報

EXTENSION MADRAS 9/5PM

LCD. KOTOSHOGYO OTARU

(名宛) JAPAN

(名宛翻譯)



(本文) MORRISON NISHIHITATSU KANEHAYAKUOKURE

No. of paper 7

(受信時刻、受信者及照校者又ハ翻譯者)

7 20M M, HIRATA

總信官察理局印

紙 達 送 報 電

モリスンフニリヨヒソウカクシキウシンセイセ ラレタシイサ
イフミマチノ

リム 三五 クダシ 一六五 ラ〇四ノ四三
ヲタルコウトウセウゲ ウガ
コウレ
イトウイノキチ

11913

注 意
一 受付当日受信せしものは月日を記入
せず
二 受付時刻の表示中「ヨ」とあるは午
前、「ウ」とあるは午後を示す
三 若し他人に宛てたるものなるときは
其の旨附箋し直に配達局所へ返戻せ
られたし



口田ノ二〇ノタ

紙 達 送 報 電

リム ニ九 トウケウイウピ ン 五四七 ラ〇〇、二五

オタル

ガクコウ

イトウイノキチ



一マホノケンサクヒハツレイリヨヒホンヒキコウニヲクルマチノ

1930

monson

Hamakuyoshi

gopuram

conclude

sonder

□ 一、二四、三〇

注 意

- 一 受付当日受倍せしものは月日を記入
- 二 受付時刻の表示中「ヨ」とあるは午前、「ウ」とあるは午後を示す
- 三 若し他人に宛てたるものなるときは其の旨附箋し直に配達局所へ返戻せられたし



IMPERIAL JAPANESE TELEGRAPHS

040

コウロク
カウロク
ワキ
校
長
閣
下
外

受信通過番號、額表及局内心得 LONDON 950 4W 19 10 55M STERN



宛) KOTOSHOGYO OTARU

(名宛翻譯)



(本文)

RYOHIMADAKA HENMATSU

O, 1M T, SUGIMOTO



No. of paper 67 (受信時刻、受信者及照校者又一翻譯者)

電信省
工務局
印刷部

IMPERIAL JAPANESE TELEGRAPHS

有線番號 140

(受信通過番號、額表及局內心得) 92 LONDON 429 5W 6 2 OS EASTERN



LCO

名宛) KOTOSHOGYO OTARU

後進電報

(名宛翻譯)

高岡



(本文)

KEIYAKUSHITA RYOHIOKURE

No. of paper 54

(受信時刻、受信者及照校者又は翻譯者) 10. 11.M CHIYO.

電報六十五號

電信省郵政局印

履 歴 書

住 所 ロンドン 北六、ハイゲト、ホリロチ、ヒルウェイ廿二

ロバト フィーリクス モリスン

一千九百年（明治卅三年）八月十一日

學 歴

自 一千九百十三年（大正二年）
至 一千九百十七年（大正六年）
愛蘭アマー、ロイアル、スクールニ學
ブ

自 一千九百十七年（大正六年）
至 千九百十八年（大正七年）
ベルファーストノハーランド アンド
ウルフ會社ノ機關工場ノ徒弟トナル

自 一千九百十八年（大正七年）
至 一千九百十九年（大正八年）
英國海軍特志豫備隊ノ海軍少尉候補
生トナリ

自 一千九百十九年（大正八年）
至 一千九百二十三年（大正十二年）
ケネデイ アンドモリスン會社（技師
甲具商）ニテ父ノ業務ニ従事ス

小樽高等商業學校

自 一千九百廿四年（大正十三年）
至 一千九百廿七年（昭和 二年）
オクス フォド大學（ペンブルク
カレジ）ニ學ブ

學 位 修等ニテ英語英文學ノピーエイヲ受ク

教授經驗 一千九百廿四年ノ夏季休暇中エオスフォドノ伯爵ノ

息 アチイスン子爵トオナラブル、パトリク

アチイスンノ家庭教師ヲ勤ム

伊
子
様

小樽高等商業學校
小林象三

1911

Name. Morrison, Robert Felix. Age. Nearly 27.

Address. 22 Hillway, Holly Lodge, Highgate, London N6.

Date of Birth. 11th August 1900. Height 6ft 1 in.

Unmarried.

School. Armagh Royal School. Co Armagh, Ireland. 1913-1917.

Premium apprentice in the Engine Works of Messrs Harland & Wolff Ltd
Belfast. 1917-1918

Midshipman in Royal Naval Volunteer Reserve 1918-1919

In my father's business, Messrs Kennedy & Morrison Ltd, (Engineers & Merchants)
1919-1923
~~1919-1923~~

University. University of Oxford (Pembroke College) 1924-1927

Degree. BA with honours in the school of English Language & Literature.

Teaching Experience. Private tutor during the summer vacation of
1924 to Viscount Acheson and the Hon. Patrick Acheson, the sons
of the Earl and Countess of Gosford.

References. H. F. B. Brett-Smith M.A. (Lecturer in English to the University of
Oxford.)
19 Hinton Road, Oxford.

Mr Brett-Smith was my tutor in English from January 1925 until
June 1927

Dr Dudden M.A. (The Master of Pembroke College)
Pembroke College, Oxford.

H. O. White M.A. (Lecturer to the University of Sheffield)
The University of Sheffield, Sheffield.

I certify the above particulars to be correct.

F. Morrison (Signed)

小樽高等商業學校

小樽高等商業學校校長伴房次郎トロバート　フイーリクスモリスン間ニ締結シタル
契約

第一條　上記モリスン氏ハ本契約ニ依リテ小樽高等商業學校ニ於テ英語及文學ノ教師トシテ備聘セラル其期間ハ昭和二年（一千九百二十七年）十一月二十日又ハ義務履行ノ爲メ本人ガ學校ニ出頭シタル日ノ兩日中ノ後ノ日ヨリ昭和五年（一千九百三十年）三月三十一日ニ至ル

第二條　上記モリスン氏ハ日本國小樽市ニ至ル旅費トシテ金一千九百三十圓ヲ受ク此金額ハ日本總領事ノ面前ニ於テ署名シタル時又ハ公證人ノ確證シタル契約書ニ正式署名ヲ爲シタルモノヲ日本總領事ニ交付シタル時ニ支拂フヘシ

第三條　上記モリスン氏ハ金四百二十五圓ノ俸給ヲ受ク此金額ハ毎月末之ヲ又給ス契約ノ開始並ニ終了ニ際シ勤務一ヶ月ニ滿タサル場合ニハ實際勤務ノ日數ニ應シテ俸給ヲ受クヘシ

第四條　上記モリスン氏ノ爲メ無料官舎ヲ使用ニ供ス如何ナル事情アルモ此官

小樽高等商業學校

一 本校は、小樽市に於て、小樽高等商業学校として設立せられたるものである。其の目的は、商業の発展に資するべく、商業の知識及び技能を授け、商業の實務を修め、商業の前途を開拓することにある。本校は、商業の知識及び技能を授け、商業の實務を修め、商業の前途を開拓することにある。

二 本校は、小樽市に於て、小樽高等商業学校として設立せられたるものである。其の目的は、商業の発展に資するべく、商業の知識及び技能を授け、商業の實務を修め、商業の前途を開拓することにある。本校は、商業の知識及び技能を授け、商業の實務を修め、商業の前途を開拓することにある。

三 本校は、小樽市に於て、小樽高等商業学校として設立せられたるものである。其の目的は、商業の発展に資するべく、商業の知識及び技能を授け、商業の實務を修め、商業の前途を開拓することにある。本校は、商業の知識及び技能を授け、商業の實務を修め、商業の前途を開拓することにある。

四 本校は、小樽市に於て、小樽高等商業学校として設立せられたるものである。其の目的は、商業の発展に資するべく、商業の知識及び技能を授け、商業の實務を修め、商業の前途を開拓することにある。本校は、商業の知識及び技能を授け、商業の實務を修め、商業の前途を開拓することにある。

五 本校は、小樽市に於て、小樽高等商業学校として設立せられたるものである。其の目的は、商業の発展に資するべく、商業の知識及び技能を授け、商業の實務を修め、商業の前途を開拓することにある。本校は、商業の知識及び技能を授け、商業の實務を修め、商業の前途を開拓することにある。



小樽高等商業學校

第五條 授業時間勤務時間制授業方針及其ノ他總テ學校ニ關スル事項ニ付テハ校長ノ指揮ニ從フヘシ但一週二十四時間以上ノ授業ヲ命セラル、コト無シ又ハ日曜日ノ授業勤務ヲ命セラル、コト無シ

第六條 上記モリスン氏ハ依囑ヲ受ケタル學事又ハ其他總テ本校ニ關スル業務ニ付意見ヲ披陳スルコトヲ得但其決定ヲ爲ス權ハ常ニ校長之ヲ有ス

第七條 上記モリスン氏ハ本校ノ規則ヲ遵守ス右規則ニ違反シ又ハ本契約ニ違反シタル場合ハ學校長ニ於テ本契約ヲ解約スルコトヲ得

第八條 上記モリスン氏ガ病氣ノ爲メ又ハ其他已ムヲ得サル事情ニ由リ引續キ三十日以上勤務ヲ爲ス能ハサル場合ニハ此期間終了後病氣又ハ其他ノ事情ノ繼續スル間ハ第三條所定俸給額ノ二分ノ一ノミヲ受ク

第九條 若シ同一原因ノ爲メ更ニ六十日ノ期間ノ後ニ至ルモ猶勤務ヲ爲ス能ハサルトキハ學校長ハ本契約ヲ解約スル權利ヲ有ス

第十條 本契約ノ各當事者ハ第一條ニ定メタル契約期間中何時ニテモ任意ニ本



小樽高等商業學校

昭和二年十一月二十五日
 小樽高等商業學校校長
 伴房次郎

以上契約ヲ證スル爲メ各當事者ハ茲ニ署名スルモノナリ

小樽ニテ

昭和二一年十一月二十五日

R. R. Davidson

小樽高等商業學校

以上契約ヲ證スル爲メ各當事者ハ茲ニ署名スルモノナリ

小樽ニテ

昭和二一年十一月二十五日

小樽高等商業學校校長
 伴房次郎

R. R. Davidson

小樽高等商業學校

小樽高等商業學校

昭和七年（一千九百二十七年）三月 日本政府ノ文部大臣代理者小樽高等商業學校長伴辰次郎トロバート フィーリクスモリスン間ニ締結シタル契約

第一條

上記モリスン氏ハ本契約ニ依リテ小樽高等商業學校ニ於テ英語及文學ノ教師トシテ備聘セラル其期間ハ昭和二年（一千九百二十七年）三月^{二十}日又ハ義務履行ノ爲メ本人ガ學校ニ出頭シタル日ノ兩日中ノ後ノ日ヨリ昭和五年（一千九百三十年）三月^{三十一}日ニ至ル

第二條

上記モリスン氏ハ日本國小樽市ニ至ル旅費トシテ金一千九百三十圓ヲ受ク此金額ハ日本總領事ノ面前ニ於テ署名シタル時又ハ公證人ノ確證シタル契約書ニ正式署名ヲ爲シタルモノヲ日本總領事ニ交付シタル時ニ支拂フヘシ

第三條

上記モリスン氏ハ金四百二十五圓ノ俸給ヲ受ク此金額ハ毎月末之ヲ支給ス契約ノ開始並ニ終了ニ際シ勤務一ヶ月ニ滿タサル場合ニハ實際勤務ノ日數ニ應シテ俸給ヲ受クヘシ

第四條

上記モリスン氏ノ爲メ無料官舎ヲ使用ニ供ス如何ナル事情アルモ此

小樽高等商業學校
第一條
昭和七年三月二十日

小樽高等商業學校

（一）本校は、小樽市に於て、高等商業教育を施すことを目的とし、昭和十一年四月一日に開校したるものである。

（二）本校の校舎は、小樽市に於て、小樽高等商業学校校舎として、昭和十一年四月一日に建築し、同年四月一日に竣工したるものである。

（三）本校の校舎は、小樽市に於て、小樽高等商業学校校舎として、昭和十一年四月一日に建築し、同年四月一日に竣工したるものである。

（四）本校の校舎は、小樽市に於て、小樽高等商業学校校舎として、昭和十一年四月一日に建築し、同年四月一日に竣工したるものである。

（五）本校の校舎は、小樽市に於て、小樽高等商業学校校舎として、昭和十一年四月一日に建築し、同年四月一日に竣工したるものである。

（六）本校の校舎は、小樽市に於て、小樽高等商業学校校舎として、昭和十一年四月一日に建築し、同年四月一日に竣工したるものである。

（七）本校の校舎は、小樽市に於て、小樽高等商業学校校舎として、昭和十一年四月一日に建築し、同年四月一日に竣工したるものである。

（八）本校の校舎は、小樽市に於て、小樽高等商業学校校舎として、昭和十一年四月一日に建築し、同年四月一日に竣工したるものである。

（九）本校の校舎は、小樽市に於て、小樽高等商業学校校舎として、昭和十一年四月一日に建築し、同年四月一日に竣工したるものである。

（十）本校の校舎は、小樽市に於て、小樽高等商業学校校舎として、昭和十一年四月一日に建築し、同年四月一日に竣工したるものである。

小樽高等商業學校

官舎ニ代ユル家賃手當ヲ支給セス

第五條 授業時間、時間割、授業方針及其ノ他總テ學校ニ關スル事項ニ付テハ校長ノ指指ニ從フヘシ但一週二十四時間以上ノ授業ヲ命セラル、コト無シ又ハ日曜日ノ授業勤務ヲ命セラル、コト無シ

第六條 上記モリスン氏ハ依囑ヲ受ケタル學事又ハ其他總テ本校ニ關スル業務ニ付意見ヲ披陳スルコトヲ得但其決定ヲ爲ス權ハ常ニ校長之ヲ有ス

第七條 上記モリスン氏ハ本校規則ヲ遵守スル者トシ、又ハ本校ノ利益ヲ害スル者トシ、及シテ本校ノ名譽ヲ害スル虞アル行爲ヲ爲シタルトキ、又ハ第一條ニ定メタル事項ヲ教授スルニ不適任ナルトキハ、學校長ハ本契約ヲ解約スルコトヲ得ルモノトス

第八條 上記モリスン氏ガ病氣ノ爲メ又ハ其他已ムヲ得サル事情ニ由リ引續キ三十日以上勤務ヲ爲ス能ハサル場合ニハ此期間終了後病氣又ハ其他ノ事情ノ繼續スル間ハ第三條所定俸給額ノ二分ノ一ノミヲ受ク

小樽高等商業學校

Handwritten text in vertical columns, likely a continuation of the contract or a related document. The text is faint and difficult to read.

小樽高等商業學校

第九條

若シ同一原因ノ爲メ更ニ六十日ノ期間ノ後ニ至ルモ猶勤務ヲ爲ス能ハサルトキハ學校長ハ本契約ヲ解約スル權利ヲ有ス

本契約ノ各當事者ハ第一條ニ定メタル契約期間中何時ニテモ任意ニ本契約ヲ解約スルコトヲ得但其解約ノ意思アルコトヲ三ヶ月以前ニ相手方ニ通告スルヲ要ス

第十條

學校長 ^{前條}ニ依リテ解約シタル場合ハ上記モリスン氏ハ解約ノ日ノ翌日ヨリ始メテ三ヶ月分ノ俸給ニ相當スル金額ヲ學校ヨリ受クヘシ但契約満期日前三ヶ月内ニ於テ解約ヲ爲シタルトキハ契約殘期ノ俸給額ニ相當スル金額ノミヲ受クヘシ上記モリスン氏ノ意思ニ依リテ解約ヲ爲ス場合ニ於テハ第三條ノ規定ニ依リ解約ノ日迄ノ俸給ノ支拂ノ外一切請求ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條

本契約ノ條項ヲ履行シ期間満了シタル後上記モリスンノ契約ヲ更新セサルトキ又ハ氏カ第七條所定ノ事由ニ因リ若クハ第一條ノ規定ニ

第九條 依リテ學校長ノ意思ニ依リテ退職シタルトキハ歸國旅費トシテ金一千
從上學校長ノ意思ニ依リテ退職シタルトキハ歸國旅費トシテ金一千
モリスン氏相方ノ願ハ

小樽高等商業學校

九百三十圓ヲ受クヘシ
 本契約満期ノ際學校長カ本契約ノ更新ヲ欲スルトキハ本契約期間満了前六十日以前ニ其旨ヲ上記モリスン氏ニ通告スヘシ
 以上契約ヲ認スル爲メ各當事者ハ茲ニ署名スルモノナリ
 小樽ニテ

小樽高等商業學校

九百三十圓ヲ受クヘシ
 第十二條 本契約満期ノ際學校長カ本契約ノ更新ヲ欲スルトキハ本契約期間満了前六十日以前ニ其旨ヲ上記モリスン氏ニ通告スヘシ
 以上契約ヲ認スル爲メ各當事者ハ茲ニ署名スルモノナリ
 小樽ニテ

年 月 日

小樽高等商業學校長 伴 房 次 郎

キチ

年 月 日

ロバート フィーリクス モリスン

日本總領事又ハ公證人

参考材料

OTARU KOTO SHOGYOGAKKO

(The Otaru Higher Commercial School.)

Hokkaido, Japan.

CONTRACT.

An agreement entered into ~~this~~ day of the month of the second year of Showa (1927) between Fusajiro Ban, Director of the Otaru Koto Shogyo-Gakko (Otaru College of Commerce), acting for and on behalf of His Imperial Japanese Majesty's Minister of Education and ~~Robert~~ (Felix MORRISON) Felix Morrison

Art. I. The said Mr. Morrison is hereby engaged as Instructor of the English Language and Literature in the Otaru Koto Shogyo-Gakko from the ~~twentieth~~ day of the ~~eleventh~~ month of the second year of Showa (the 20th November, 1927), or from the date of presenting himself for duty at the College, whichever shall be the later date, up to the thirty-first day of the third month of the fifth year of Showa (the 31st March, 1930).

Art. II. The said Mr. Morrison shall receive the sum of one thousand nine hundred and thirty yen as travelling expenses for his journey out to Otaru, Japan, which sum shall be paid on signing the contract before the Consul-General of Japan, or delivery to him of a duly signed contract testified by a notary public.

Art. III. The said Mr. Morrison shall receive a salary of four hundred and twenty-five yen payable at the end of each month. For uncompleted months at the beginning and at the expiration of the contract the salary shall be paid only for the number of days of actual service.

Art. IV. An official residence free of rent

小樽高等商業学校

Vertical Japanese text in a rectangular box, likely a signature or official stamp area.

OTARU KOTO SHOGYOGAKKO

(The Otaru Higher Commercial School.)

Hokkaido, Japan.

will be provided for the said Mr. Morrison's occupancy.

Under no circumstances will an allowance be made in lieu of the house.

Art. V. The said Mr. Morrison shall act in accordance with the Director of the College as to the number and arrangement of hours, the plan of instruction and all other matters connected with the College, but in no case shall he be called upon to teach more than twenty-four hours a week nor to render any teaching service on Sundays.

Art. VIII. The said Mr. Morrison may submit his opinions of matters appertaining to the branch of instruction assigned to him, or any other affairs connected with the College, but the right of decision shall always remain with the Director of the College.

Art. VII. ~~In case~~ The said Mr. Morrison ^{shall observe} ~~violates~~ the regulations of the College ~~for commits an act or acts detrimental to the interests of the College or likely to impair his honour as an Instructor of the College, or proves himself incompetent to teach the subjects specified in Article I.~~ ^{In case he violates them or he infringes on the present contract,} the Director of the College shall have the right of annulling the contract.

Art. VIII. In case the said Mr. Morrison becomes unable to perform his duties for a period of thirty consecutive days on account of illness or any other circumstances beyond his control, then during the continuance of such illness or circumstances after the expiration of such period, he shall receive only one half of the salary specified in Article III. If from the same cause he be still unable to resume his work after a further period of sixty days, the Director of the

HOKKAIDO OTARU

(The Otaru Higher Commercial School.)

OTARU KOTO SHOGYOGAKKO

(The Otaru Higher Commercial School.)

Hokkaido, Japan.

College shall have the right of annulling the contract.

Art. IX. The present contract may be annulled by the wish of either of the contracting parties at any time prior to the expiration of the term of engagement specified in Article I., provided that three months' notice is given by one party to the other with regard to the intention of annulment.

Art. X. In case the ^{Director annuls the Contract by the preceding article} annulment is by the wish of the Director of the College, the said Mr. **Morrison** shall receive from the College a sum of money equal to the salary for three months counting from the date following the day on which such annulment is made, but if the time of annulment falls within three months of the expiration of the contract, he shall be paid only a sum of money equal to the salary for the remainder of the term of his engagement. In case the said annulment is by the wish of the said Mr. **Morrison** he can make no claim other than the payment of the salary up to the day of the said annulment in accordance with Article III.

Art. XI. If after the fulfilment of the articles of this contract and at the expiration thereof the engagement of the said Mr. **Morrison** be not renewed, or if he retires ^{by the wish of the Director of the College} under the circumstances ~~under Article IX~~ specified in Article VIII, or at the wish of the Director of the College under Article X., he shall receive the sum of one thousand nine hundred and thirty yen as the expenses of his return journey.

Art. XII. If at the expiration of this contract the Director of the College should desire to renew the contract, a proposal to that effect

provided that he returns direct to England within a reasonable

OTARU KOTO SHOGYOGAKKO

(The Otaru Higher Commercial School.)

Hokkaido, Japan.

his work after a further period of sixty days, the Director of the in Article III. If from the same cause he be still unable to resume of such period, he shall receive only one half of the salary specified the continuance of such illness or circumstances after the expiration of illness or any other circumstances beyond his control, then during perform his duties for a period of thirty consecutive days on account Art. VIII. In case the said Mr. becomes unable to right of annulling the contract. specified in Article I., the Director of the College shall have the or of the College, or proves himself incompetent to teach the subjects interests of the College or likely to impair his honour as an instructor of the College or commits an act or acts detrimental to the Art. VII. In case the said Mr. violates the regulations shall always remain with the Director of the College. any other affairs connected with the College, but the right of decision matters pertaining to the branch of instruction assigned to him, or Art. VI. The said Mr. may submit his opinions of hours a week nor to render any teaching service on Sundays. but in no case shall he be called upon to teach more than twenty-four the plan of instruction and all other matters connected with the College, with the Director of the College as to the number and arrangement of hours Art. V. The said Mr. shall act in accordance Under no circumstances will an allowance be made in lieu of the house. 'a occupancy. will be provided for the said Mr.

OTARU KOTO SHOGYOGAKKO
(The Otaru Higher Commercial School.)
Hokkaido, Japan.

shall be made to the said Mr. *Morrison* sixty days before the expiration of the term of engagement.

In witness whereof each of the parties has hereunto signed.

At Otaru

Witness to Director

Date *the 25th November, 1927.*

Director of Otaru Koto Shogyo Gakko

At

Witness to *R. F. Morrison*

Date *Sept 6th, 1927.*

[Signature]
ACTING CONSUL GENERAL FOR JAPAN
LONDON.

R. F. Morrison

OTARU KOTO SHOGYOGAKKO
(The Otaru Higher Commercial School.)
Hokkaido, Japan.

College should desire to renew the contract, a proposal to that effect
Art. XII. If at the expiration of this contract the Director of the
hundred and thirty yen as the expenses of his return journey.
lege under Article X., he shall receive the sum of one thousand nine
specified in Article VII., or at the wish of the Director of the Col-
be not renewed, or if he retires under the circumstances
at the expiration thereof the engagement of the said Mr. Morrison
Art. XI. If after the fulfillment of the articles of this contract and
annulment in accordance with Article III.
claim other than the payment of the salary up to the day of the said
ment is by the wish of the said Mr. Morrison he can make no
the remainder of the term of his engagement. In case the said annul-
contract, he shall be paid only a sum of money equal to the salary for
time of annulment falls within three months of the expiration of the
date following the day on which such annulment is made, but if the
a sum of money equal to the salary for three months counting from the
College, the said Mr. Morrison shall receive from the College
Art. X. In case the annulment is by the wish of the Director of the
of annulment.
notice is given by one party to the other with regard to the intention
term of engagement specified in Article I., provided that three months
of the contracting parties at any time prior to the expiration of the
Art. IX. The present contract may be annulled by the wish of either
College shall have the right of annulling the contract.

省 部 文

小五一号

昭和二年十二月十三日

文部大臣官房秘書課長



小樽高等商業學校校長殿

依命通知

左記通本日發令アリシルニ付御傳達相成度

小樽高等商業學校書記 山村良三

大室良輔

給四級俸

文部省

OTARU KOTO SHOGYOKAKU
(The Otaru Higher Commercial School)
Otaru, Hokkaido

In witness whereof each of the parties has hereunto signed.
expired of the term of engagement.
shall be made to the said Mr. Miyazaki
sixty days before the

At Otaru

Director of Otaru Koto Shogyo
Gakko

Witness to Director

Date

At

Witness to

Date